平成　29 年　2 月　20 日

博士論文審査結果報告書

報告番号

学籍番号　1127022008

氏　　名　鬼頭　泰子

論文審査員

主　査（教授）　塚崎　恵子　印

副　査（教授）　田淵　紀子　印

副　査（教授）　島田　啓子　印

論文題名　子育て期にある女性がん患者の子どもとその家族への看護の実態
－子ども，母親，家族へのそれぞれのアプローチからの検討－

論文審査結果

【論文内容の要旨】

子育て期にある女性が、がんに罹患し入院する場合、本人のみならず子どもの心身への影響が大きく、その家族への支援が重要である。本研究は、看護師が子育て期のがん患者やその子どもを中心とした家族にどのように関わっているのか、がんに罹患した子育て期の母親が入院している際の子どもへの看護を明らかにすることを目的とした。研究方法は、がん看護に関わる看護師 20 名を対象とし、半構成的面接法を実施した。分析は、質的記述的方法にて子どもに対する関わりに関連する文脈を抜き出し、意味を読み、コード化した。その結果、【子どもの生活背景や行動面から子どもの思いを組み取る関わり】、【子どもも母親をサポートする家族の一員として尊重する関わり】、【子どもの年齢・発達や経験に合わせた関わり】、【患者役割と母親役割とのバランスを考えた関わり】、【未来に続く母子関係が病気や治療によって阻まれることが無いような関わり】、【家族が同じ方向に進んでいけるような関わり】、【子どもをサポートしてくれる者への支援】の 7 カテゴリーが抽出された。これらは、「女性がん患者の子どもへの直接的アプローチ」、「女性がん患者を通した子どもへの間接的アプローチ」、「女性がん患者とその子どもとの母子関係へのアプローチ」、「女性がん患者とその子どもを取り巻く家族へのアプローチ」の 4 つの視点からの関わりであった。看護師の関わりとして、子どもへの直接的な関わりだけでなく、家族の関係性の中で生きる母親役割を尊重した関わりが大切であることと、その家族を見据えた関わりから、ターミナル期のみではなく治療期早期からの看護の介入の必要性が示唆された。

【審査結果の要旨】

本研究は、がんに罹患した子育て期の母親が入院している際の母親と子どもへの看護を明らかにしたものであり、本成果は今後のがん看護の質の向上に役立つ。公開審査では、対象の選出基準と妥当性、分析方法、結果の解釈、成果の還元と今後の発展に関して質疑され、適切な応答がなされた。

以上、学位請求者は本論文の論文審査及び最終試験の状況に基づき、博士（保健学）の学位を授与するに値すると評価する。